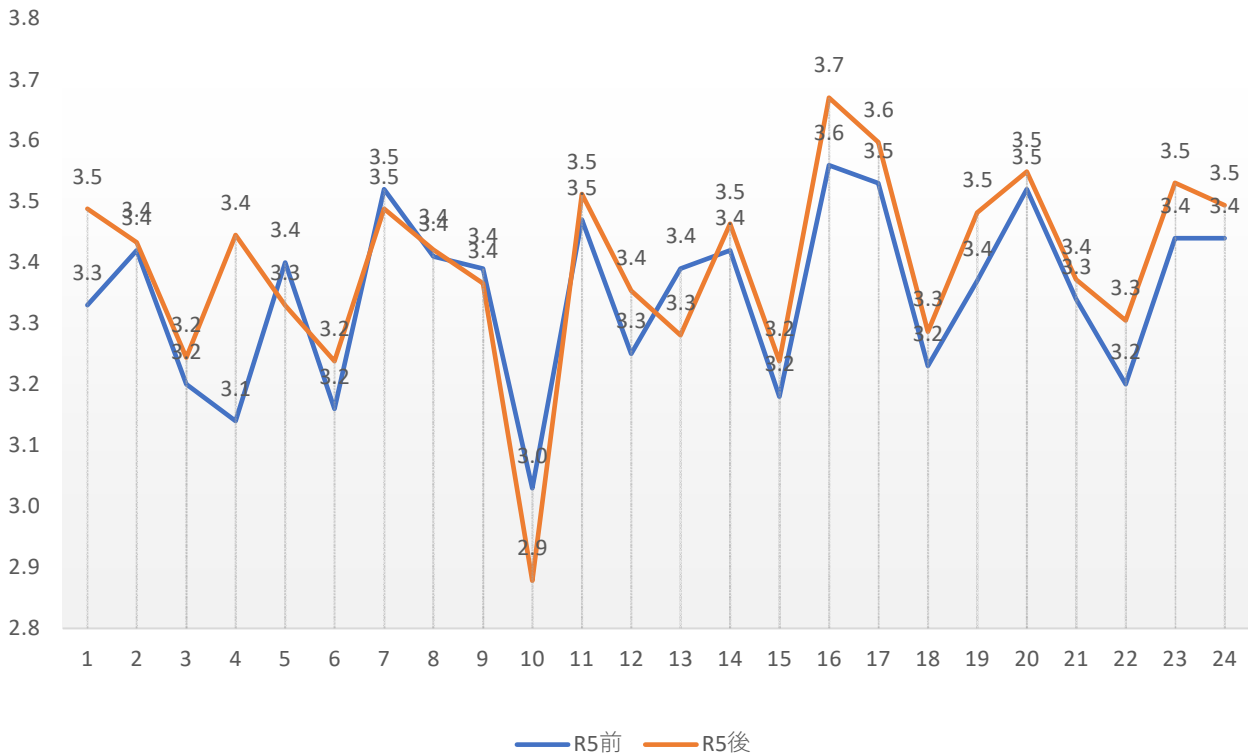


1 教育目標		「ともにかがやく」						
2 評価項目		領域	評価項目	達成目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員の意見
1	重点目標		① 友達との対話を通して学び合う子	児童・保護者・職員93%以上	児童94%・保護者94%・職員92%	B		
			② 思いやりのある子	児童・保護者・職員90%以上	児童91%・保護者96%・職員100%	A		
			③ 苦手なことにも進んで取り組む子	児童・保護者・職員90%以上	児童82%・保護者76%・職員92%	C	持久走の記録、読書の記録等子どもにも成果を実感しやすい方法を用いて、より高い目標へのチャレンジを促す。また、保護者にも子どもの頑張りを伝えていく。	
2	教育課程学習指導		① 授業が楽しい	児童94%以上	児童89%	C	子どもの興味関心に沿った課題の設定を意識する。タブレットを活用し、協働的な学びと個別最適な学びの両方の視点での充実を目指す。	
			② 授業に興味をもって取り組んでいる。	保護者・職員90%以上	保護者90%・職員100%	A		
			③ 相手に伝わる話し方	児童・保護者・職員85%以上	児童85%・保護者77%・職員85%	B	“対話”に重点を置いて授業を進める。どの教科においても、話形を活用し、聞き手への意識を高め、語彙の増強を目指していく。	
			④ 話をしっかり聞いている。	児童・保護者・職員90%以上	児童92%・保護者87%・職員100%	B		
3	生徒指導		① 学校生活の約束を守る。	児童・保護者・職員95%以上	児童94%・保護者93%・職員92%	C		下校の挨拶は比較的できている。しかし、高学年になるほどシャイになり、知らない人に対して自分から挨拶できるのは2割ぐらいになっている。緑の服の人は守ってくれるボランティアの人だと子ども達に伝え、挨拶の輪を広げていきたい。
			② やさしい言葉づかいをする。	児童・保護者・職員85%以上	児童90%・保護者85%・職員85%	A		
			③ 先生や友達、地域の人に挨拶をしている。	職員が担当場所を決めて児童への挨拶を意図的に行い、児童・保護者・職員80%以上	児童80%・保護者70%・職員100%	B	一時期に比べ、職員も児童も意識が下がってしまった。職員からの声かけ、児童会での活動をもう一度確認し、引き続き進めていく。	
			④ 学校生活が楽しい。	児童・保護者・職員94%以上	児童88%・保護者98%・職員100%	B		
4	健康安全指導		① 規則正しい生活習慣が身についている。	児童・保護者・職員85%以上	児童82%・保護者94%・職員100%	B		
			② 給食をおいしく、残さず食べる。	児童・職員80%以上	児童91%・職員77%	B	苦手なものにも一口でもチャレンジするよう声をかける。健康や食文化の視点から、また、野菜を育てる体験を通して、食への関心を高める。	
5	特別支援教育		① 自分には、よいところがある。	児童・保護者・職員83%以上	児童86%・保護者87%・職員100%	A		
			② 友達と協力して活動する。	児童・保護者・職員95%以上	児童93%・保護者95%・職員100%	B		
6	組織運営		① 避難の仕方が分かる。	児童・保護者・職員95%以上	児童95%・保護者70%・職員100%	B	年5回の訓練(火事や地震の避難、引き渡し、防犯、煙体験など)を行っている。保護者にも、それらの様子を伝えながら、児童・保護者・職員の三者ともに、命を守ることへの意識を高めたい。	子ども達は、これまで登下校途中の訓練をしていないので、万が一の時に避難できるかどうか心配がある。崖崩れや橋の崩落等、想定外を想定した話を子ども達に伝え、災害に対応できる子どもを育てたい。
7	研修		① 「学びの深まり」の実感をもてる授業づくり	職員95%以上	職員100%	A		
			② 授業での学習内容を理解している	児童・保護者90%以上	児童90%・保護者84%	B		
8	家庭地域連携		① 地域、家庭と連携した教育活動	保護者・職員86%以上	保護者92%・職員100%	A		
			② 夢や目標をもってがんばる。	児童・保護者・職員85%以上	児童90%・保護者88%・職員100%	A		
			③ 地域が学校を支援する活動が活発	保護者80%以上	保護者79%	C	生活科や総合的な学習、資源回収、朝夕の挨拶・交通指導、読み聞かせ等、地域の方の協力は大きい。保護者にも伝わるよう、発信を増やしていく。	
			④ 情報発信(学校・学級だより等)	保護者・職員97%以上	保護者94%・職員100%	B		
9	施設整備		① 子どもの過ごしやすい環境作り	保護者・職員95%以上	保護者93%・職員100%	B		掃除を通して、子どもの中に何を育てようとしているのか。子どもは、「なぜ掃除が必要か」という理由が分かれば、責任を持って仕事をしようになる。“挨拶・ありがとう・ごめんなさい・掃除”が身につけば、社会人として生きていける。そのぐらい掃除は大切。掃除のプロを呼んで、レクチャーを受けるのもいいのではないかと。パティ制度を活用して、お互いに掃除後の確認をすることも一つの方法。自分にとって快の方向へ環境を整えたいという思いが、掃除の原動力。掃除をしながら、どうしたら身の回りが整うかに気付く目が育っていく。また、掃除を通して、資源についての学びも広がっていく(SDGs)。
10	特色ある教育活動の推進		① すすんで仕事に取り組む。(係・委員会)	児童・保護者・職員97%以上	児童94%・保護者79%・職員100%	C	職員からの声かけ、帰りの会で友達のよさを伝える場等、努力を認める機会を増やしチャレンジを促す。また、保護者にも子どもの頑張りを伝えていく。	
			② だまって、時間いっぱい掃除	縦割り掃除を通して、児童・職員95%以上	児童90%・職員54%	C	6年生の声かけにより、黙働が進んだ。担当する部分が終わっても、他の人に協力し、時間いっぱい掃除を行うよう指導する。音楽やチャイム等で、終了時刻を意識できるようにする。	
11	読書活動の推進		① 読書に取り組んでいる。	家庭読書の日の設定と1日2冊の貸し出しを通して、児童・保護者・職員75%以上	児童63%・保護者48%・職員100%	C	保護者宛に読書郵便を持ち帰り、書かれた本の内容について家庭で話し合う機会をもって頂くなど、協力を願っている。家庭読書の日、テスト後の時間等、読書の機会の確保に引き続き取り組む。	授業時数とのバランスを取りながら、国語の単元と関連付けて、隙間時間にクラス皆で図書室に通う借りに行く、好きなジャンルから広げながら等、他にも読書を進める方法があるのではないかと。家庭読書の日には、今よりも多くの本を貸し出し、保護者にも家で読んでもらうようにお願いするなど、家庭との連携も進めたい。タブレットを活用する方法も考えたい。
12	基礎学力の向上		① 家庭学習の習慣が身につくように工夫して取り組んでいる。	児童・保護者・職員85%以上	児童85%・保護者93%・職員100%	A		
			② チャレンジタイムへの取り組み	易しい問題集とEライブラリを併用して、児童・職員90%以上	児童86%・職員85%	C	ロングチャレンジタイムを設定し、学習に苦手意識のある子どもへの指導の機会を増やす。タブレットの持ち帰りが始まったので、Eライブラリへの取り組みを促す。	

R5年度 後期学校評価 ②

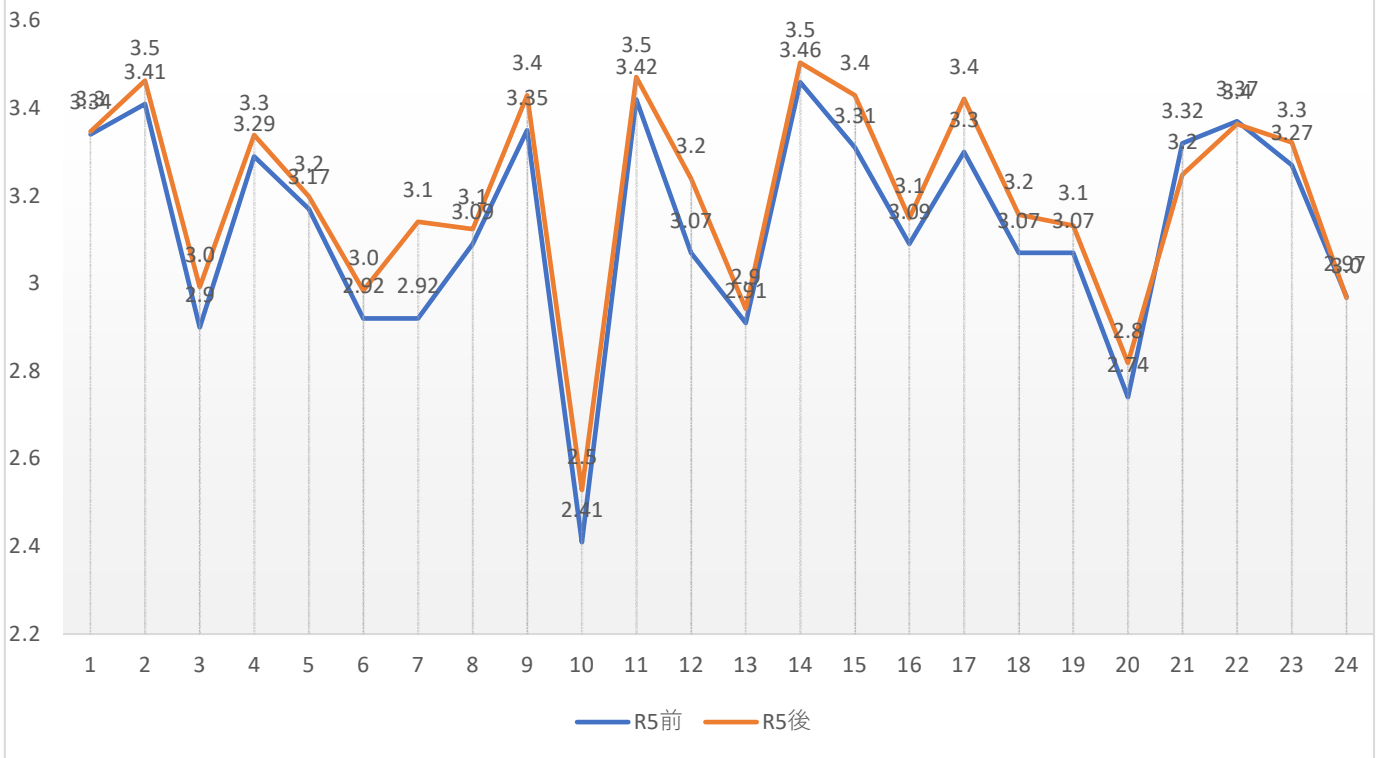
R5前・R5後比較（児童）



グラフ番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	26	27	28	29
説明番号	1	2	3	4	6	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	26	27	28	29		
児童	友達と話し合いながら、学び合っている	友達に優しくすることができ	苦手なことにも、進んで取り組んでいる	みんなでする授業が、楽しい	授業で勉強したことが、よくわかる	自分の考えが、友達や先生に伝わるように話している	友達や先生の話をしっかり聞いている	チャレンジタイムの勉強は、自分のためになっている	自分の学年に合った時間に気をつけて 毎日、宿題に取り組んでいる	読書に取り組んでいる	学校生活の約束を、守っている	友達に、優しい言葉づかいをしている	友達や先生、家族や地域の人に、進んであいさつをしている	学校が楽しい	規則正しく生活している（早寝 早起き 朝ご飯）	係の仕事に、進んで取り組んでいる	友達と協力して、楽しく活動している	自分には、良いところがあると思う	夢や目標をもって がんばっていることがある	地震や火事、ふしん者しん入時などの、ひなんのしかたがわかる	ちいきの人に教えてもらいながら、勉強することが楽しい	だまって、時間いっぱいそうじをしている	給食をおいしく食べている	身の回りを整理整頓したり トイレのスリッパをそろえてぬいだりしている		
前	3.3	3.4	3.2	3.1	3.4	3.2	3.5	3.4	3.4	3	3.5	3.3	3.4	3.4	3.2	3.6	3.5	3.2	3.4	3.5	3.3	3.2	3.4	3.4	3.4	3.4
後	3.5	3.4	3.2	3.4	3.3	3.2	3.5	3.4	3.4	2.9	3.5	3.4	3.3	3.5	3.2	3.7	3.6	3.3	3.5	3.5	3.4	3.3	3.5	3.5	3.5	3.5

R5年度 後期学校評価 ③

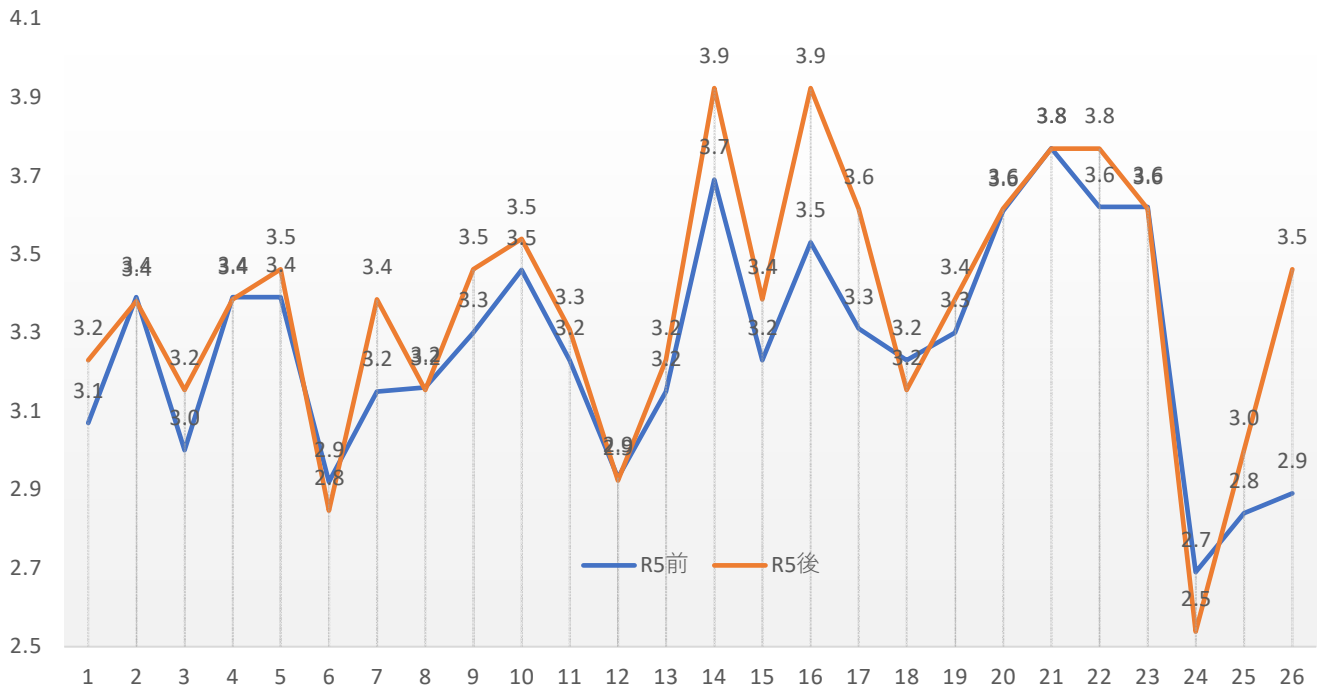
R5前・R5後比較（保護者）



グラフ番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
設問番号	1	2	3	4	6	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
保護者	「対話を通して学び合う子」に育っている	「思いやりのある子」に育っている	「苦手なことにも進んで取り組む子」に育っている	授業に興味をもって取り組んでいる	授業の学習内容を理解している	自分の思いが相手（先生や友達、家族）に伝わるように話している	人（先生や友達、家族）の話をしっかり聞いている	ドリル学習等で、基礎学力が定着している	宿題に継続して取り組んでいる	家庭で読書をしている	学校生活の約束を守っている	友達にやさしい言葉づかいをしている	家庭や地域で進んであいさつをしている	学校生活を楽しんでいる	規則正しく生活している（早寝 早起き 朝ごはん）	家庭で手伝いをしたり、自分の役割を果たしたりしている	学校生活を通し、友達と協力して活動している	自分の良いところを認めている	目標をもって頑張っている	災害時（地震や大雨のとき）の避難の仕方を知っている	児童の安心安全に配慮した教育活動を行っている	伝えている	学校生活や子どもの様子を学校・学年だより等で分かりやすく	地域や家庭と連携・協力して地域活動に取り組んでいる	地域は学校を支援する活動が活発である
前	3.3	3.4	2.9	3.3	3.2	2.9	2.9	3.1	3.4	2.4	3.4	3.1	2.9	3.5	3.3	3.1	3.3	3.1	3.1	2.7	3.3	3.4	3.3	3.0	
後	3.3	3.5	3.0	3.3	3.2	3.0	3.1	3.1	3.4	2.5	3.5	3.2	2.9	3.5	3.4	3.1	3.4	3.2	3.1	2.8	3.2	3.4	3.3	3.0	

R5年度 後期学校評価 ④

R5前・R5後比較（教職員）



グラフ番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	31
設問番号	1	2	3	4	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	31		
教職員	「対話を通して学び合う子」に育っている	「思いやりのある子」に育っている	「苦手なことにも進んで取り組む子」に育っている	授業に興味をもって取り組んでいる	「子どもの学びの深まり」をめざし、授業づくりに取り組んでいる	子どもは、相手に伝わるように話している。	子どもは、友達や先生の話をしっかり聞いている	チャレンジタイムを通し、子どもの基礎学力に向上が見られる	家庭学習の習慣がつくように、工夫して取り組んでいる	子どもは、読書に取り組んでいる	子どもは、学校生活の約束を守っている	子どもは、友達にやさしい言葉遣いをしている	子どもは、友達や先生、地域の人に挨拶をしている	子どもは、学校生活を楽しんでいる	子どもは、規則正しい生活習慣が身についている	子どもは、係や委員会活動などの仕事に進んで取り組んでいる	同級生、異学年問わず、協力して活動しようとする態度が身についている	子どもは、自分の良いところを認めている	子どもは、目標をもって頑張っている	避難訓練を通し、子ども・保護者に有事の際の動きを伝えることができた	校舎内外の整備をし、子どもの過ごしやすい環境づくりを行っている	学校生活や子どもの様子を、学校だよりや学級だよりによって、わかりやすく伝えている	地域や家庭と連携・協力して、教育活動に取り組んでいる	子どもは、黙って時間いっぱい掃除をしている	子どもは、給食をおいしく、残さず食べている	ワークライフバランスを意識して勤務している		
	前	3.1	3.4	3.0	3.4	3.4	2.9	3.2	3.2	3.3	3.5	3.2	2.9	3.2	3.7	3.2	3.5	3.3	3.2	3.3	3.6	3.8	3.6	3.6	2.7	2.8	2.9	
	後	3.2	3.4	3.2	3.4	3.5	2.8	3.4	3.2	3.5	3.5	3.3	2.9	3.2	3.9	3.4	3.9	3.6	3.2	3.4	3.6	3.8	3.8	3.6	2.5	3.0	3.5	